

第24期日本学術会議化学委員会高分子化学分科会（第2回）議事要旨

日時：平成30年5月24日（木）9:00~10:00

場所：名古屋国際会議場 2号館 1階 213会議室

（以下敬称略）

出席者：（第三部会員）片岡一則、君塚信夫、（連携会員）伊藤耕三、上垣外正己、岸村顕広、小林定之、佐々木園、澤本光男、八島栄次、吉江尚子

欠席者：（連携会員）栗原和枝、高原淳、中條善樹、原田明、藤田照典、三浦佳子

議題：

1. 前回議事要旨案の確認と承認

前回議事要旨案の確認を行い承認した。

2. 大型研究マスタープランについて

2-1. マスタープランに関連するシンポジウム開催について

産業競争力懇談会（COCN）（産業界主体）が中心となり、化学分野では高分子に関連するシンポジウムを高分子学会と協力して開催が検討されている旨、紹介があった。本学術会議の委員会としても、マスタープランに関連させる形でシンポジウム開催に協力する方向で動くこととした。

2-2. 大型研究マスタープランに関して

マスタープランのテーマは、多くの方に関連する広いものが適しており、大型施設、とくに一部で設置の話が進みつつある放射光をキーワードとしたものが良いのではとの提案があった。マスタープランの中身については、総合科学技術・イノベーション会議（内閣府）の方向性との関連づけや、社会との接点を明確化する必要がある。

また、人材育成や国際化を盛り込める場合は、装置群を Platform としてアジアの人材育成の拠点を日本に設置する案が提案された。近隣諸国の方に、装置利用の技術トレーニングを日本で行うと共に、共同研究を行い、共著論文など研究成果を増やすことでプレゼンスをあげることができるのではとの意見があった。これに関して、材料ファクトリなどのネーミングも重要との意見があった。

さらに、AI と大型施設を関連させることに関しても提案があった。ただし注意事項として、データの流出が問題となるので、しっかり日本にデータを残すことが重要との意

見があった。また、ネガティブデータも含めた生データもしっかり蓄積することが、データプレーニングには重要であるとの指摘があった。

高分子に関連するキーワードとして、気にならない高分子が挙げられ、例えば、病が気にならない高分子、エネルギーが気にならない高分子、環境が気にならない高分子などが挙げられた。マイクロプラスチックの問題も含めて、環境ストレスが少ない高分子材料の開発は重要な課題であるとの意見があった。

マスタープランは長期にわたるものなので、そのプランを実行するために必要な人材育成を組み込みことも重要であるとの意見があり、検討することとした。

3. 高分子科学の最近の情勢について

3-1. 世界高分子年に関して

高分子 100 年に関する、世界的な取り組みはまだ明確になっていないとの紹介があった。日本としては、高分子学会 70 周年と共に、高分子 100 周年をお祝いし、本委員会もそれに協力をする方向で動くことが提案された。

4. その他

4-1. AI に関して

日本化学会や日本化学産業協会を中心に、経産省からの支援の下、Chemo Informatics を中心としたセミナーを行い、人材育成を行うことが計画されていること、分子研で「化学と AI」に関する講演会が 5/30 に開催予定であること、日本学術会議化学委員会にて「情報科学との融合による新化学創成小委員会」が設置されたことなどが紹介され、高分子分野でも AI が重要な事を再確認した。